

～ 運動・脳・心 の関係 ～

人間の脳は、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の大きく4つに分かれています。前頭葉は知性や理性など「人間らしさ」を司る役割を担っています。

前頭葉の中には、

- ・体の動きをコントロールする【運動野】
- ・感情をコントロールする【前頭前野】

体を動かすと、前頭葉の中にある**運動野が活性化**します。その効果で、前頭葉全体に多くの血流が流れ、**前頭前野も同時に活性化**し、**抑制力・判断力・注意力などの感情をコントロールする力**がよりうまく働くようになります。

また、前頭葉の前方に**46野**という領域があります。これは「我慢の中枢」と呼ばれ、自分の行動を統制する働き（我慢をしたり、行動にブレーキをかけたりする働き）をします。

運動野を刺激することで**46野も活性化**され、人間らしい脳形成が行われると言われています。乳幼児期に全身運動をすることは、体を丈夫にすることはもちろん、ものごとに集中する力や自分で判断する力がつくなど、心の発達にもつながるのです。

前頭前野 運動野



脳の成長は早い！！

脳の成長は他の器官よりも早く、大人の脳を100とした場合、8歳で90%、10歳でほぼ100%成長します。つまり、8歳までに基本的な脳の仕組みや神経回路ができあがると言われています。

運動面だけでなく、10歳までの経験や体験は、その人の一生を支えていく基盤となります。したがって、それまでの経験や体験、人とのかかわりが豊富な人ほど、人間性も豊かになると考えられています。

だからこそ運動が好きな子を育てるためには、乳幼児期に環境を整え、体を動かす体験を増やすことが大切なのです。

■主体性が未来をつくる！

～子どもの「したい」を大切にしたい 子ども主体の保育～

「主体性」とは、自分で考え、自分の意志で行動し、自分で物事を決定していく力。子どもが様々な状況に出会った時、自分で考えたり、乗り越えたりしていくための基盤となります。

主体性を育むには、「自分でやってみたい」という気持ちや、「どうすればいいだろう？」と考える機会が大切です。思うようにいかないことがあっても「次はどうすればうまくいくのだろう」と考えたり、試したりしながら向き合うことで、問題解決力や挑戦する力、自己調整力にもつながります。また、思いやりの気持ちや自立心、人間関係を築く力を育てることもつながります。



■学校教育との接続

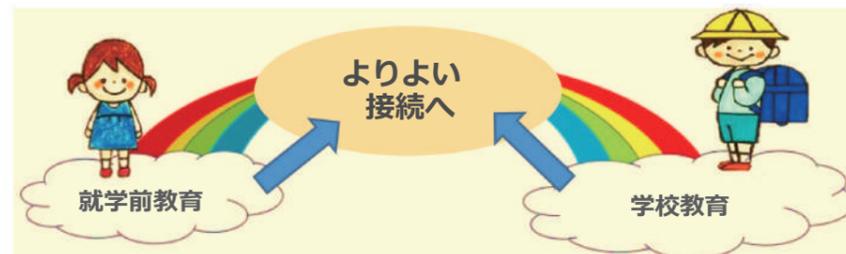
～園と学校のつながりを大切に～

園と学校との接続とは、園での生活や経験、学びを活かして、学校の環境や学びへつなげる取組です。

園では遊びを通して子ども達の成長を支えています。学校では学習を中心とした生活になります。このような変化の中で、子ども達が安心して過ごせるように「園」と「学校」が連携を深める必要があります。

そこで、園から学校へと子どもの学びや育ち、経験を円滑につなげることで、自信を持って新しい環境に馴染めるようにすることを目指します。また、子ども達が安心して過ごすために、一人ひとりの育ちに合わせた対応ができるよう、学校と情報を共有し支援体制を整えることが大切です。

接続の取組を通して、子ども達が、園での経験や学び・生活を活かせるよう職員が連携し、様々な工夫を行い、子どもの学びや成長を支えます。



長浜市教育委員会事務局 幼児課 TEL (0749) 65-8607

健やかで心豊かな 子どもをめざして

乳幼児期は人格形成の基礎を培う大事な時期です。このリーフレットは、子どもの成長や長浜市の教育・保育について掲載しています。子ども達の今と未来を共に支え、歩みましょう。

遊びがいっぱい！



夢がいっぱい！

学びがいっぱい！



長浜市教育委員会

就学前教育の重要性と長浜市の取組

乳幼児期は人として生きるための「根っこ」(人間形成の基礎)が培われる極めて重要な時期といわれています。特にこの時期には、あたたかい養育環境のもと、身近な大人によって生命を守られ、愛される中で、人に対する愛情や信頼感を育むことが大切です。

そして情緒が安定することで、人とのかかわりが広がり、主体性も育ちます。また、様々な体験を通して、豊かな心情、意欲、態度、基本的な生活習慣などを身に付けていきます。



そこで、長浜市では、【就学前教育目標】と【めざす子ども像】を掲げ、幼稚園・保育所・認定こども園において教育・保育に取り組んでいます。0歳から5歳までの豊かな学びを積み重ね、小学校へ、また、未来を切り抜く「生きる力」へと円滑につながるよう、私たちはその土台となる「生きる力の基礎」の育成をめざしています。

【就学前教育目標】

健やかで心豊かな子ども
～生きる力の基礎を身に付けた子どもの育成～

【就学前教育 ～めざす子ども像～】

- ◆身近な自然や事象に興味や関心をもち、自分で考え、意欲的に学ぼうとする子ども
- ◆思いやりの心もち、友達と協力して物事をやり遂げようとする子ども
- ◆健やかな心と体もち、自分でできることは自分でしようとする子ども

--- 子ども達の発達や学びは連続します ---

学びには、自ら興味・関心をもってかかわり、気付き、認められることでもっとやってみようとする経験を繰り返す“サイクル”があり、その中で子ども達の意欲や自信が育まれます。

このサイクルは児童期以降にも連続し、主体的に学ぶことにつながります。



【0～5歳 乳幼児期(就学前)】 生きる力の基礎を育む



■就学前教育(乳幼児期)

園では“主体性”に重きをおき、生きる力の基礎(からだの力、かかわりの力、まなびの力)を育むため、成長に合わせて以下のような機会をつくり、発達や学びのサイクルに繋げています。

<生活>

「自分でできるよ。」
基本的な生活習慣を身に付け、見通しをもって行動する。



<言葉>

「〇〇したいけれど、どうする？」
思いを伝えたり、話を聞いたりする意欲や態度を身に付ける。



<思考>

「たくさん流れるかな？」
「置き方をかえてみたらどう？」
興味をもった遊びの中で、考えたり試したりする。



<創造>

「わたしならこうしたいな」「ここに〇〇があったらもっと楽しそう」
遊びや体験、物語などを通じて、自由な発想で想像し、自分らしい表現を生み出す。



<運動>

体を動かす心地よさを感じたり、目的をもって挑戦したりする。

<規範>

生命の尊さやきまり・物の大切さに気付き、考えて行動する。

<協同>

自分で考えてやり遂げようとして、友達と共通の目的が実現する喜びを感じたりする。

<信頼>

人への信頼感や思いやりの気持ちもち、自信をもって行動しようとする。

■小学校教育(児童期)

- 知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや達成感を体得する。
- 具体的な活動や体験を通して学んだり、試行錯誤を繰り返したりしながら、自分で工夫して解き明かす力や粘り強く取り組む姿勢を身に付ける。
- 学習する姿勢や態度、学習用具の使い方を身に付け、話したり聞いたり書いたり読んだりする。